

## 第43回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 増田 聡

### 1. 応募作品

・小規模建築物部門	9 作品
・一般建築物部門	22 作品
計	31 作品

### 2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議 2022年9月16日(金) 17:00~18:00  
於 オンライン (Zoom)

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

- (2) 東北建築作品発表会 2022年10月8日(土) 10:00~16:02  
於 オンライン (Zoom)

第32回東北建築作品発表会において応募された作品の発表が行われた。コロナ禍ということで昨年度に引き続きオンライン開催であったが、限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

- (3) 第1次審査会 2022年10月8日(土) 16:30~18:00  
於 オンライン (Zoom)

東北建築作品発表会終了後、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門と一般建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。

全作品の中から一人10票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門3作品、一般建築物部門10作品、合計13作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された13作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、施設管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行うこととした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

- (4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して実施した。

- (5) 第2次審査会 2023年1月21日(土) 13:00~17:30  
於 日本建築学会東北支部会議室

まず、増田委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告した後、ほかに現地を確認した担当委員からも印象や評価すべき点を報告した。報告を受けて、それぞれの作品ごとに、審査の評価ポイント等についての討議を参加の委員全員で行った。すべての作品の紹介と討議が終わった後に、出席の全委員による投票を行った。投票に当たっては、応募数が例年並みに戻ったことを踏まえて投票数を決定した。また、特別賞は特筆すべき点がある作品と、佳作として評価できる作品を対象とすることを確認した。

投票の結果、作品賞は一般建築物部門から3作品、小規模建築物部門から1作品の、合計4作品が選定された。特別賞については、小規模部門から1作品が選定された。

## (6) 総評

今回の4つの作品賞受賞作は、立地する東北の地域環境や風土・文化を丁寧に読み解いた上で、公的施設としてそれぞれに求められる「児童遊戯、観光交流、生産販売、美術鑑賞創作」の活動そのものの位置づけやあり方にまで遡った検討を経た後に、建築計画・空間構成・構造設計の新しい提案や工夫を試みているという特徴があります。また、特別賞となった狭小敷地にたつ小規模住宅も、EV コアとスキップ状のフロア構成で二世帯居住でも閉塞感を感じさせない工夫に見どころがありました。今年も、小規模建築物部門から2作品が選ばれるなど、地域コミュニティとの関わりやヒューマンスケールの視点を意識した身近な作品に優れたものが目立った年といえそうです。

## (7) 選考結果

### 「作品賞」 4 作品

小規模建築物部門

#### ◆南三陸ワイナリー

- 【施 主】 南三陸ワイナリー株式会社
- 【所 在 地】 宮城県本吉郡南三陸町志津川旭ヶ裏7-3
- 【設計監理】 株式会社 irodori 一色 ヒロタカ  
KATSU STUDIO 勝 邦義
- 【構造設計】 Graph Studio 福島 佳浩
- 【設備設計】 株式会社前田設備設計事務所 前田 康太  
上玉利電気設備設計 上玉利 直也
- 【グラフィック】 Grotesk 本間 亮
- 【施 工】 建築／有限会社山本セメント、ホンダアーキスタジオ  
電気／有限会社イー・エム工業  
衛生／株式会社小山設備  
鉄骨工事／有限会社今野鉄鋼所  
サイン／株式会社アベ美装、株式会社オオウチ工  
芸 家具／一般社団法人南三陸YES工房  
資材提供／大和リース株式会社

一般建築物部門

#### ◆八戸市美術館

- 【施 主】 八戸市
- 【所 在 地】 青森県八戸市番町10-4
- 【設 計】 コンセプト／西澤徹夫＋浅子佳英＋森純平  
建築／西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ（現・PRINT AND BUILD）設計共同体  
西澤徹夫 浅子佳英 森純平 宮武壮太郎（元所員）小泉立  
構造／オーノJAPAN 大野博史 藤本智 海老澤孝秀（元所員）  
設備／森村設計 吉田崇 川口智之 水谷貴俊 三野誠  
監理／西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ（現・PRINT AND BUILD）設計共同体  
西澤徹夫 浅子佳英 森純平 宮武壮太郎（元所員）小泉立 原井喜雄（石川設計）  
橋本徳浩（橋本設計）大瀧英知（総合設計研究所）大石佳奈（総合設計研究所）  
サイン／ラボラトリーズ 加藤賢策 奥田奈保子（元所員）岸田紘之（元所員）  
カーテン／安東陽子デザイン 安東陽子 山口かすみ

照明アドバイザー／飯塚千恵里照明設計事務所 飯塚千恵里

音響アドバイザー／森純平 土倉律子

防災／安宅防災設計 鈴木貴良 白谷健太郎

積算／アーキ・ピーアンドシー 上木貴博

【施 工】 建築／鴻池組・田名部組・東復建設 特定建設工事共同企業体 佐藤正 熊田健二

佐々木浩貴 若林克明

電気設備／ユアテック・溝口電気 特定建設工事共同企業体 川戸良訓 上村洋一

機械設備／ダイダン・サカモト・葵 特定建設工事共同企業体 城健二 野村大貴

春日光浩 平野喜代勝

外構／穂積建設工業株式会社 赤坂謙太

## ◆シェルターインクルーシブプレイス コパル

### (山形市南部児童遊戯施設)

【施 主】 山形市

【所 在 地】 山形県山形市大字片谷地 580-1

【設 計】 建築／大西麻貴、百田有希、池邊絢子、坂野雅樹

大西麻貴+百田有希/o+h

構造／平岩良之、國江悠介、藤本貴之 平岩構造計画

設備／阿部哲哉 Otias

サイン／原田祐馬、平川かな江 UMA / design farm

タイル／水野太史 水野製陶園ラボ

木製ベンチ等／カリモク家具

照明／有馬郁恵 大光電機 TACT 東京デザイン課

監理／大西麻貴、百田有希、池邊絢子、福田哲也、坂野雅樹

大西麻貴+百田有希/o+h

【施 工】 建築／大場菊雄、佐藤伸幸、井上勇太、蜂谷良太 高木担当

木村仁大、矢口清、茂木賢志 シェルター担当

高木・シェルター特定建設工事共同企業体

空調／村田潤司 Otias

衛生／安彦彰 Otias

電気／高橋慎吾 タカハシ電工

外構／富塚竜一、相原次順 石川建設産業

木構造体供給／佐藤公紀、佐藤和洋 シェルター

## ◆yodge

【施 主】 福島県玉川村

【所 在 地】 福島県玉川村四辻新田字村中 131

【設 計】 建築 SO&CO. : 担当／照内創 高橋賢泰 (元所員)

都市環境研究所 : 担当／土橋悟

建築設計協力 檜垣幸志建築設計事務所 : 担当／檜垣幸志

土木・ランドスケープ 都市環境研究所 : 担当／土橋悟 平寄大地 稲葉美里

SO&CO. : 担当／照内創

土木設計協力 新和調査設計 : 担当／湯澤洋一郎 石川幸司 七海隼人 高橋兼統

構造 EQSD：担当／遠藤俊貴 三崎洋輔  
機械設備 ユニ設備設計：担当／寫田成二  
電気設備 EOSplus：担当／遠藤和広 野口亮太郎 福島颯太  
植栽計画 NiwaMori：担当／三浦豊  
VI 計画 SURMOMETER：担当／宇野昇平 伊奈麻衣子  
監理・土木発注者支援 SO&CO. 都市環境研究所 檜垣幸志建築設計事務所  
EQSD ユニ設備設計 EOSplus  
【施 工】 建築 荒牧建設：担当／大河内利雄 鈴木則雄  
土木 小山田産業開発：担当／小山田和也  
空調・衛生 ユアテック：担当／阿部章  
電気 ユアテック：担当／高久哲也  
家具 ラ・ビーダ：担当／渡部信一郎 伊藤寛樹

## 「特別賞」 1 作品

小規模建築物部門

### ◆二世帯で住む、巨木の住処

【所在地】 宮城県仙台市青葉区  
【設計監理】 Ginga architects 武田幸司  
【構造設計】 MAF 一級建築士事務所 皆本建築工房 皆本功  
【施 工】 株式会社 絆建築 伊辺佑成 板垣凌

(8) 講評

作品賞

#### 【南三陸ワイナリー】

「南三陸ワイナリー」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町に再建された水産加工場のプレハブ建築を再利用したリノベーション施設で2020年10月に竣工しました。当施設は、ワインの醸造・熟成スペース、ワインや海の幸を味わえるショップからなり、海に見える展望テラスも増築していて、少ない予算の中でプレハブのリユース材を積極的に使用し、カスタマイズしやすい仕掛けを施しています。またぶどう畑に使用していた木ぐいの再利用やボランティアらによるDIYによって施工費削減を図るとともに、多くの人を巻き込むプロジェクトとなっています。震災後、当たり前のように存在していたプレハブ建築も、今では多くの被災地で見られなくなっており、復興過程の記憶を継承するという点でも「南三陸ワイナリー」は意義深い存在と言えます。さらに年毎に変わるワインラベルや商品パッケージのデザインなど、事業全体のブランディングにも設計者が携わっており、地域貢献や地方創生への寄与が求められる、これからの建築家像を体現している点でも大いに評価できます。

#### 【八戸市美術館】

八戸市中心市街地に位置し商店街、市役所、銀行などに隣接する美術館は、様々な形の植え込みやベンチなどが散りばめられている広場を中心に、市民が気軽にアプローチできる施設となっています。トラス構造による明るく解放的な大空間「ジャイアントルーム」がエントランスホールであり、休憩、展示、製作のスペースとして市民が自由に参加しやすい空間となっています。2室に分節できるギャラリー、高天井のスタジオ、ワークショップ、映像展示のブラックキューブ、大展示のホワイトキューブ、コレクションラボ、など「個室群」はどの部屋も「ジャイアントルーム」に面していて、様々な組み合わせにより多様な使い方や新しい試みを可能にしています。収納展示主体の美術館から地域の風土や文化に根ざしたプログラムを主体とした美術館であり、アートの枠を超えた市民の多様な活動の可能性を感じます。コミュニティ施設としての美術館のあり方として、東北建築作品賞に相応しいと評価されました。

### 【シェルターインクルーシブプレイス コパル（山形市南部児童遊戯施設）】

この作品は、様々な文化や思考、障害も含めて多様な背景を持つ子供たちのために山形市が建設した教育・文化・体育の拠点として建設された施設です。設計者は、誰もが使える“ユニバーサル”デザインではなく、“インクルーシブ”という概念を提唱し、多様な人たちがその個性や特性を有しながら、集まれる場所を設計しました。その取り組みでは、企画段階から、設置者、運営者、施工者、利用者を巻き込んで議論を重ね、計画・設計を進めたプロセスは特筆に値します。体育館から遊技場までを緩やかにつなぐ空間と、蔵王連峰に溶け込む屋根の形状、それを実現する鉄骨立体トラスと木造アーチの構造計画などが、子供だけでなく大人も引き付ける魅力的な建築として実現しています。地域の木材を利用した遊具・ベンチ、手すり、照明器具など細やかな配慮・工夫も丁寧に施されています。効率性・採算性が重視され、画一的な建築になりがちなPFI案件でありながら、東北の山形にふさわしい地域性・個性を有しながら、全国の“インクルーシブ”建築の代表モデルとなりうる作品です。以上より、東北建築賞作品賞にふさわしいと高く評価されました。

### 【yodge】

yodge は、福島県玉川村の四辻地区にある 70 年以上前に建てられた旧分校を村全体の活性化のために、泊まり・集え・子どもたちが遊べる場としてリノベーションした観光交流施設です。校庭からの外観の保全や既存材の再利用、或いは丁寧なランドスケープづくり等、地域の風景と地域活動を継承していこうとする試みを感じられます。内部空間においては、片側廊下型から中廊下型に既設の界壁を教室側に移設し、廊下だった箇所には、水廻り等を違和感なく納めており、誰もが思い浮かべる学校らしい片側廊下型のデザインの継承がなされています。かつての教室は宿泊室として防火性能を室内側で確保する等、廊下側のデザインを損ねない工夫がなされています。また、既存の天井高さにルーバー天井を設けたカフェレストランや四辻ギャラリーにおいても、図面表現で解体箇所を示す点線のような既存空間の面影を感じさせるリノベーションを実現させています。発注者や地域の人々においても、風景と地域を継承していこうとする強い意志が感じられる作品です。

### 特別賞

#### 【二世帯で住む、巨木の住処】

歴史ある門前町の中を走る旧街道沿いの、密集した住宅地にこの住宅はあります。住宅地の狭い路地を入り込んだ先に見える外観は、2 階部分が張り出したシンプルだけれども特徴的なものとなっていますが、外観からは巨木の印象はありません。しかし内部に入るとその印象は一変し、中央の木製タイルで装飾されたエレベータシャフトを中心としてらせん状に連続的に配置された空間の構成が、まるで巨木のまわりをぐるりと回りながら上っていくような感覚を与えてくれます。また、各空間の光は光井戸とハイサイドライトによってうまく取り入れられており、住宅の密集地で開口部が取りにくいにもかかわらず閉塞感を殆ど感じません。巨木を模したエレベータでも行ける屋上階は計算され尽くした庭園となっており、密集する隣接建物から解放された景観を望むことができます。密集住宅地にある、決して広くはない敷地に隠れていた魅力を最大限まで引き出し、広がりのある空間を実現しているこの作品は、狭小地における住宅の可能性を示すものと言えるでしょう。

### 第 43 回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長 ・増田 聡 東北大学大学院経済学研究科地域計画研究室  
・前田 匡樹 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻  
・有川 智 東北工業大学建築学部建築学科  
・石山 智 秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科  
・新井 信幸 東北工業大学建築学部建築学科  
・崎山 俊雄 東北学院大学工学部環境建設工学科  
・本郷 智大 山形県立産業技術短期大学校建築環境システム科  
・濱 定史 山形大学工学部建築・デザイン学科  
・大宮利一郎 榎楠山設計  
・六本木久志 建築舎・アトリエ R  
・大野 晋 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

以上